

電気製品認証協議会 (SCEA) 2014年度 活動報告

電気製品認証協議会 (SCEA) は 1994 年 12 月 8 日に設立され、おかげさまをもちまして、20 周年を迎えることができました。設立から今日までの 20 年間に、多くの製造・輸入事業者の方々にご理解をいただきながら、また経済産業省をはじめ、学識経験者や消費者団体、流通事業者団体、製造事業者団体等多くの方々からご支援を賜り、感謝申し上げます。

最近の社会環境は、安全で安心な社会づくりを目指した取り組みが社会全体で推進され、電気製品については、特にリコール未対策品による事故防止や事故防止のための消費者の意識を高める取り組みが要請されており、また電気用品安全法（電安法）技術基準が性能規定化され、整合規格が整備されつつあります。

このような環境の下、SCEA としては、2014 年度活動計画に基づいて、20 周年記念事業実行委員会を中心にして、20 周年記念事業を実施しました。併せて、電気製品の安全性向上に貢献すべく、幹事会、基本問題専門部会及び広報専門部会において、S マーク認証の信頼性向上と S マークの普及促進を図るための活動を実施しました。

1. SCEA 設立 20 周年記念事業を実施

SCEA は 1994 年 12 月 8 日に設立され、2014 年 12 月に満 20 年を迎えるにあたって 20 周年記念事業を実施すべく、20 周年記念事業実行委員会ですべての実施内容と推進計画を策定し、20 周年記念事業を次のとおり実施した。

- ① 2014 年 12 月 8 日に 20 周年記念式典と記念パーティを開催
- ② 記念式典で正田 SCEA 前会長による記念講演を実施
- ③ 記念式典で感謝状贈呈を実施（全部で 70 事業者団体・店舗・個人）
- ④ 記念誌「電気製品認証協議会 20 年のあゆみ」を出版
- ⑤ 記念ロゴを制定して啓発資料の作成・配付や記念広告等を実施

なお、記念誌は 20 周年記念式典・記念パーティ参加者に配付するとともに、SCEA 会員や S マーク広報活動にご協力をいただいている流通事業者等に幅広く配付した。

2. 今後の S マーク活動の方向性を検討

20 周年記念事業において、多くの方々からいただいた今後の S マーク活動についてのご意見等を踏まえて、今後の活動の方向性について、S マーク認証の仕組みと広報・普及促進の観点から、検討を行った。

3. S マーク認証の信頼性向上を目指した取り組みの実施状況

S マーク認証の信頼性向上を目指して取り組んできた「S マーク認証のための適用基準の整備」、「S マーク認証製品の市場買上げ」、「経済産業省試買テスト結果の分析」、「リコールへの対応」及び「初回ロット検査」については、以下のとおり実施した。

(1) S マーク認証のための適用基準の整備

- ① 電球形 LED ランプの S マーク認証の追加基準について、性能規定化の対応として現在検討中の安全 JIS へのスムーズな移行を図るため、追加基準を改定した。

- ② エアコンの遠隔操作機構に関するSマーク認証の運用基準を制定・運用しているが、エアコン以外の製品についても運用基準を制定し、運用を開始した。
 - ③ 性能規定化への対応については、産業構造審議会製品安全小委員会の電気用品整合規格検討WGに参画し、動向把握と認証機関での情報の共有化を図った。
- (2) Sマーク認証製品の信頼性向上と市場サーベイランス（監視）を目的に、毎年実施している「**Sマーク認証製品の市場買上げ**」について、2014年度は13製品・機種の買上げを実施した。技術基準不適合となった機種については、認証機関による事実関係調査を実施し、その結果を基本問題専門部会に報告し、所要の改善措置を講じた。
 - (3) 電安法に基づく「**経済産業省 2013年度試買テスト**」を分析し、技術基準不適合となったSマーク認証製品については、当該事業者の経済産業局への対応策の報告状況を確認しながら、認証機関による事実関係調査を実施して、Sマーク認証上の課題抽出と再発防止に向けた取り組みに努めている。
 - (4) 2014年度に事業者によって新たに「**リコール**」されたSマーク認証製品は4件あり、認証機関による事実関係調査を実施して定期工場調査等でフォローアップを実施するとともに、Sマーク認証基準の必要性等について、検討した。
 - (5) Sマーク認証製品の初回量産時に工場等を訪問して、最初の生産ロットが認証時と同じ仕様で生産されているかを確認する「**初回ロット検査**」について、2014年度は37件実施した。

4. Sマーク付き電気製品の店頭普及実態調査及びSマークの各種広報活動を実施

電気製品の市場実態を把握するために、Sマーク付き電気製品の店頭普及実態調査を毎年実施しているが、最近数年間は約80%近くの電気製品にSマークが付いていることがわかり、今後のSCEA活動に活かしていきます。

また、販売店店舗（イトーヨーカドー木場店（東京）とアピタ千代田橋店（名古屋））でSマーク広報イベントを実施して、一般消費者のSマーク認知度を調査するとともに、SCEAのホームページ等により、Sマークの認知度向上や普及促進に努めた。

特に、2014年度は20周年記念事業の一環として、20周年記念ロゴをSマークの啓発資料（ポスター、リーフレット、SマークQ&A（まんが））に掲載して幅広く配付するとともに、業界紙等への記念広告を実施した。

なお、一般消費者の認知度向上を図るために、消費者に視点をおいたSマークの広報・普及促進活動の実施に心がけて推進した。

5. 国際情勢の把握と対応

IECEE国内審議委員会委員長より、2014年6月4日から5日にかけてオーストラリアのケアンズで開催されたIECEE CMC会議（IECEE認証管理委員会）の出席報告を受けて、IECEE-CB制度（IEC電気機器安全規格適合性試験制度）の活動状況等の動向を把握し、IECEE国内審議委員会と連携してSマーク認証の適切な運営に努めた。

以上